

## 【授業科目】生理学 Physiology

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
森 啓至	1年次前期	必修	1	15	講義		巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	生理学は正常な人体の機能を学ぶ学問であり、すべての医学系科目の基礎となる重要な学問である。様々な病気が発症するメカニズムや病態、それに対する様々な臨床検査を学ぶためには、まず正常な人体の機能について知ることが大切である。本講義では、多彩な人体機能の中でも特に生理機能検査学を学修する上で必要となる、循環・神経・呼吸・体液調節に関する基礎的な知識を教授する。							
授業の 位置づけ	本学のディプロマポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞の基本構造と働きについて説明できる。</li> <li>・興奮性細胞の興奮（活動電位）について説明できる。</li> <li>・循環器系、神経系、呼吸器系、体液調節の機能について理解し説明できる。</li> </ul>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>電子教科書を利用して講義する。各回の講義に用いた配付資料等や教科書にメモした事項は、授業後の当日中にノートにまとめること。 受講にあたり、予習と復習をそれぞれ60分程度行い積極的に授業に取り組むこと。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回) (1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 生理学の基礎：細胞の構造と機能、細胞内外での物質交換</p> <p>第2回 興奮性細胞の脱分極と再分極</p> <p>第3回 循環生理の基礎と心臓のポンプ作用</p> <p>第4回 循環調節と心臓の刺激伝導系</p> <p>第5回 神経系の基礎と末梢神経の機能</p> <p>第6回 中枢神経系の機能</p> <p>第7回 呼吸生理の基礎と調節</p> <p>第8回 体液調節</p>							全て 森
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって判断する。 学期末試験 80% 授業への取り組み 20%							
教科書	生理機能検査学（医歯薬出版）および配布資料にて講義を行う。			参考書等	臨床検査講座・生理学（医歯薬出版） QUICK生理学・解剖学（羊土社） 看護のための臨床病態学（南山堂）			
学生への メッセージ	生理学はすべての医学系科目の基礎となる学問です。暗記にたよらず、生体機能を理解しましょう。そのためには、授業を受けたその日のうちに復習することです。簡単なこと、基本的なことでも構わないので、疑問点は質問してください。なお、教科書「生理機能検査学（医歯薬出版）」は、生理機能検査学 I.II でも使用する。							